

ひびきの家 安城 家族会

2018.5.19

強まる日差しに夏への移ろいを感じる季節を迎えました。グループホームひびきの家 安城は、今年3月で開設後5年目を迎えました。この度「第3回家族会」を開催しました！最初に外部講師（言語聴覚士）による「嚥下」についての講演を聴講しました。



【講師】

安城老人保健施設

言語聴覚士 阿部 美樹先生

【演題】

「嚥下」いつまでも美味しく
食べるために・・・

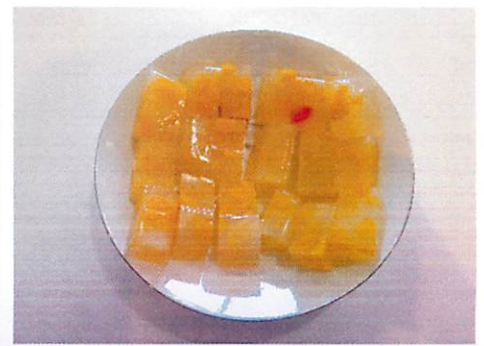
続いて昼食では、講演で教わった内容を早速取り入れ、食事の前に「唾液腺マッサージ」や「嚥下体操」などを行いました！そして、お待ちかねのバイキングがスタートです☆ 利用者様には“食べたいものを好きなだけ”選んで頂き、お腹一杯になるまで堪能して頂きました😊 みなさん ご家族様との会話を楽しまれながら親しみに満ちた笑みを浮かべていらっしゃいました！

みなさん、
食事の前の体操です！
口を大きく開きましょー！

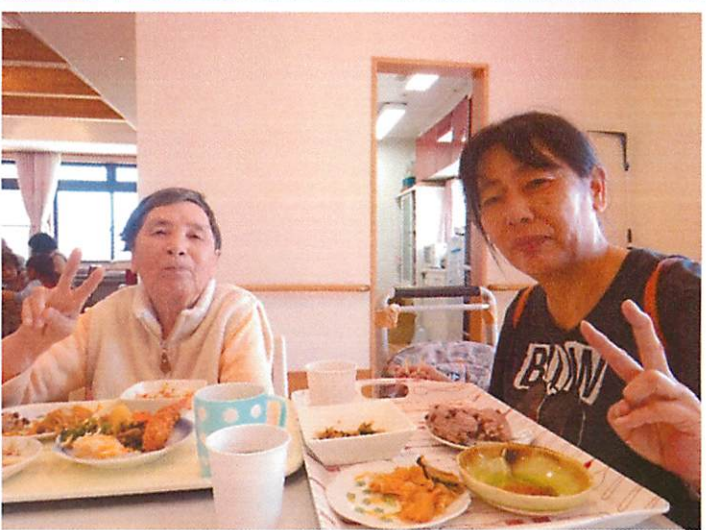


あー

♡ 手作り料理 ♡



たくさん料理を
用意させて頂きました！
どうぞお腹一杯になるまで
お召し上がりください♡





腹ごしらえを終えたところで、中庭での農作業に移りました！利用者様にも参加して頂く予定でしたが、真夏のような暑さであったため ご家族様と職員が中心となって進めました。草を抜き、畑を耕して、野菜の苗を植えました🌱収穫できる日が待ち遠しいですね！これから利用者様と一緒に大切に育てていきます！



家族会の最後には、「介護の詩 親愛なる子供たちへ」という手紙を朗読させて頂きました。これは介護を受けている方が子供様に対して詠まれたもので、大変「心に響く」メッセージが込められており、中には涙を流して聞かれているご家族様もいらっしゃいました。短い時間ではありましたが、今回の「家族会」が「ご家族の絆」を深めて頂ける機会となったとすれば幸いです。



介護の詩 朗読



帰宅されるご家族様との別れを惜しまれる利用者様

「介護の詩 親愛なる子供たちへ」※抜粋
 年老いた私がある日 今までの私と違って
 いたとしてもどうかそのままの私のことを
 を理解して欲しい 私が服の上に食べ物を
 こぼしても靴ひもを結び忘れても あなたに
 いろいろなことを教えたように見守って
 欲しい
 悲しいことではないんだ 旅立ちの前の
 準備をしている私に祝福の祈りを捧げて
 欲しい いずれ苗も弱り飲み込む事さえ
 できなくなるかもしれない 足も衰えて
 立ち上がることもできなくなったら
 あなたが弱い足で立ち上がろうとする
 私に助けを求めたように よろめく私に
 どうか あなたの手を握らせて欲しい
 私の姿を見て悲しんだり 自分が無力だと
 思わないで欲しい 私を理解して支えて
 くれる心だけを持って欲しい きつとそれ
 だけで私には勇気がわいてくる。
 あなたの人生の始まりに私がしっかりと
 付添ったように 私の人生の終わりに少し
 だけ付添って欲しい あなたが生まれて
 くれたことで私が受けた多くの喜びと
 あなたに対する変わらぬ愛を持って
 笑顔で答えたい愛する子供たちへ



車が見えなくなるまでお見送り